

第六章 齟齬過失具、他將來ノ參考トナルベキ事項

第一節 靈陵 全縣ニ向フ追撃ヲ斃闘

一 機動ニ関スル事項

(一) 優勢ナル敵ノ空中勢カ下ニ於テ極ク不良ナル道路ヲ錯綜スル友軍ノ人馬車輛ヲ排除シテ行軍ヲ實現スルニ方リ敵機ノ損害ヲ防止シ最モ苦心セル所ニシテ概ネ右記要領ニ依リタリ

ハ夜行軍ヲ嚴守ス

出發時刻ハ當日ノ天候、日没時刻ニ依リ遅延アルモ勉ク薄暮未期ニ於ケル薄明ヲ利用シ行軍行程ノ増大ヲ計ル

到着時刻ハ遅クモ日出一時間前通常ハ約三時間ノ餘裕ヲ見テ待避ス

一夜ノ行軍行程ハ道路ト待避所ノ狀況トヲ顧慮シ右ノ時刻ヲ基準トシテ定メ通常ニ〇〜三五料ニ止ム

又 待避所ノ偵察及確保ニ為有カナル將校以下ヲ先行セシム

要員施例

(1) 長沙―衡陽間ニ九口料(大隊獨行)―申継式

長沙―衡陽間ハ部隊錯列ニ良好ナル待避所ハ殆ク他部隊使用シアリ

前進要領

(1) 大隊指揮官以下 (貨車) 待避所ノ偵察

(2) 通信掛將校以下 (貨車 一)

待避所ノ確保ニ若干ノ人員

(3) 本部主力大隊段列全部 (貨車 一)

待避所ノ確保ニ若干ノ人員
死罪置ス
第三中隊設管隊ハ右確保隊ヨリ行
置 隊所ノ甲良ク確保ニ為若干ノ人員死

(4) 第三中隊主力及第三中
隊設管隊 (貨車 一)

右ト同要領

(5) 第三中隊主力及第四中隊
設管隊 (貨車 一)

同右

(6) 第四中隊主力
(7) 聯隊段列

各々一日行程ヲ間ヒテ前進ス主力ハ五梯團トシテ各梯團ノ車輛總數ハ十車輛
ヲ超ヘズ各梯團間ハ晝間相互ニ徒歩連絡シ前方ノ狀況確認及死罪置員
ノ補填ヲナス

聯大隊段列ハ燃料交付所及修理所開設ニ為適時躍進ス

(口) 衡陽―苦林山間ニロ料(聯隊行軍)停車場式

衡陽―祁陽間約一ロ料ハ道路ハ切斷最王劇シク且月明ニシテ夜間空襲
頻繁ナリ祁陽以南ハ道路良好且互ル所待避所アリ部隊ノ輜糒又少シ

前進要領

聯隊指揮班長及各隊小隊長以下各々貨車二車輛ヲ指揮シ先行偵察

ニ任ジ各待避所ハ小隊長以下ヲ配置シテ前進ス
待避所確保部隊ハ最後尾ノ部隊通過終了セバ主力ヲ追及ス各梯團ハ中隊ヲ集
幹トス

3. 待避所選定上ノ着眼

- (イ) 一般ニ偽装ヲ要セサル如キ大樹ノ密林ヲ可トス
- (ロ) 附近ノ地形ニ比シ著明ニ過クル森林ハ不可 寧ろ口疎林内ニ分散偽装スルヲ可トス
- (ハ) 敵機ハ常ニ怪シキ場所ヲ探リ撃手ヲ入
進入進出容易ナルコト
- (ニ) 但シ若干ノ工事ハ常ニ惜マサルヲ要ス
成ルベク本道ヨリ離隔スルコト
- (ホ) 状況ニ依リテハ家屋内ヲ可トス 貧弱ナル小部落程可ナリ
既ニ爆撃手ヲ受ケタル半壊家屋或ハ焼跡等ハ甚ク有利ナリ
- (ヘ) 進入路ノ轍痕消去容易ナルコト
既ニ永ク使用セル箇所ハ轍痕深ク消去困難ナリ成ルベク新シキ場所ヲ可トス
- (ト) 附近ニ多数ノ軍隊密集高塔トシテナルコト特ニ馬匹部隊
本回ノ敵機ニ依ル犠牲者ハ殆ド總テ近傍ノ他部隊發見セラル之ニ對スル銃
爆撃ヲ蒙リテ生イタルモノナリ

4. 對空警告或ヲ至嚴ナラシム

車輛ノ運行間ハ爆音ノ聽取困難ナルヲ以テ對空警告或專任ノ自動車ヲ主
クノ前方ニ道直躍進セシメ機関ヲ停止シテ爆音ノ有無ヲ確ク發見セラル

5 宿 營

場合の直ちに燈火ヲ以テ後方ニ記号ス。
又夜間敵機ノ來襲ハ概テ月明ノ夜ニ限ラレ主トシテ哨ノ單機ヲ以テ低空
飛行シ來ル故ニ肉眼ニ依リテモ機影就中排氣光ヲ發見シ得或ハ附近
ヲ銃爆撃スル音響自 曳光彈道等ニ依リ事前ニ對應ノ處置ヲ講ジ
得 一般ニ月明ノ夜ハ無燈火行進ヲ主トシ局吧ノミ燈火ヲ使用スルヲ安全ト
ス

我が位置ノ秘匿ニ重點ヲ置キ敵機ノ攻撃ヲ受ケルモ損害口ヲ最少限ナラシム
ル如ク予メ對應ノ處置ヲ講ズルト共ニ敵機ノ攻撃ヲ受ケルヤ直チニ對空
射撃ヲ依リ墜ヲ期スルノ準備ニ遺憾ナクアラシム

(1) 車輛ノ分散

少クモ各車三〇米以上離隔セシメ積載物ハ全部卸下分散燃料槽内ノ
燃料ハ板キ取りガソリンノ容器ハ總テ地中ニ埋メルカ地形ヲ利用シテ
分散セシム

(2) 車輛ノ偽裝

附近ノ地形地物ノ順應セシムル如ク特ニ注意ス
樹木ニ乏シキ場合ハ針葉樹 常綠樹等容易ニ枯レタル樹幹ヲ植立
一時的ニ人工森林ヲ作ルヲ可トスルモ不自然ナラサルヲ要ス
進入路ノ轍痕消去又ハ偽裝

(3)

(4) 前項ノ處置ハ黎明時ニ於テ必ズ點檢シ所要ノ修正ヲ施スヲ要ス
晝間ニ於テモ亦適時必要ナリ

(5) 宿舎ハ待避所ヨリ適宜離隔セシム又著明ナル部落ヲ避ケ地形上安全ナル場所
ヲ可トス

(6) 晝間ノ炊煙及屋外ニ於ケル乾燥物ニ深甚ノ注意ヲ為シ狀況ニ依リハ之ヲ
嚴禁ス

通常宿營地ニ到着セバ拂曉迄ニ朝晝食ノ炊事ヲ終リ薄暮時夕食
ヲ炊クヲ通常トセリ 乾燥物ハ屋外又ハ樹陰ヲ利用シ特ニ白色物ノ暴露ヲ
或ハ

(7) 對空監視及警告報ノ傳達ヲ確實トスル

對空監視者ノミナラス爆音ヲ聽キタル者ハ直ニ比隣相傳ヘ直ニ遮蔽下ニ
ラレメ一兵ト雖モ不用意ニ暴露シテアル如ク嚴ニ實行ヲ監督ス

(8) 對空射撃部隊及之ガ陣地ニ常ニ準備スルニ過早ニ射撃開始セラズ
或ハ

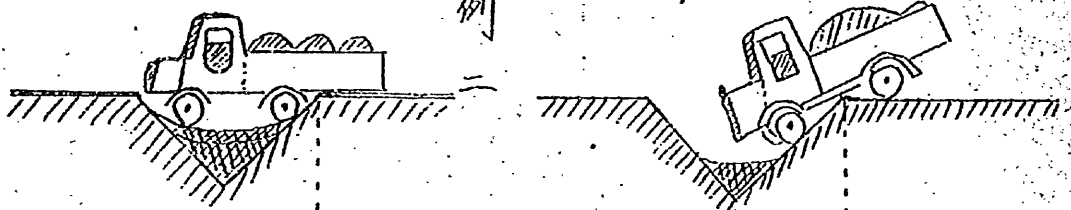
(二) 對戰車壕ノ通過ニ就テ

本機動開道路ハ至ル所切斷アル其断面又各種各様ナリモ多ク三角断面又
ハ梯形断面ニシテ壕中五米乃至十米内外ナリ
之ガ補修一般ニ不完全ニシテ兩岸ヲ削リ傾斜ヲ緩テラシムラ要スル箇所アリ

例一

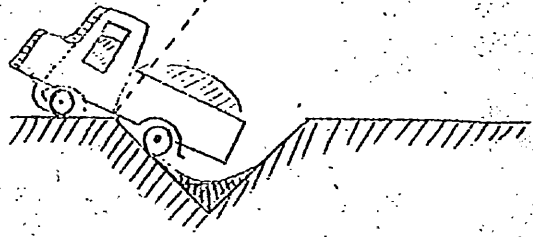
020

例



↓ 架区後部がツカヘル

推進軸
差動装置
がツカヘル



197

220

0218

二 補給ニ関スル事項

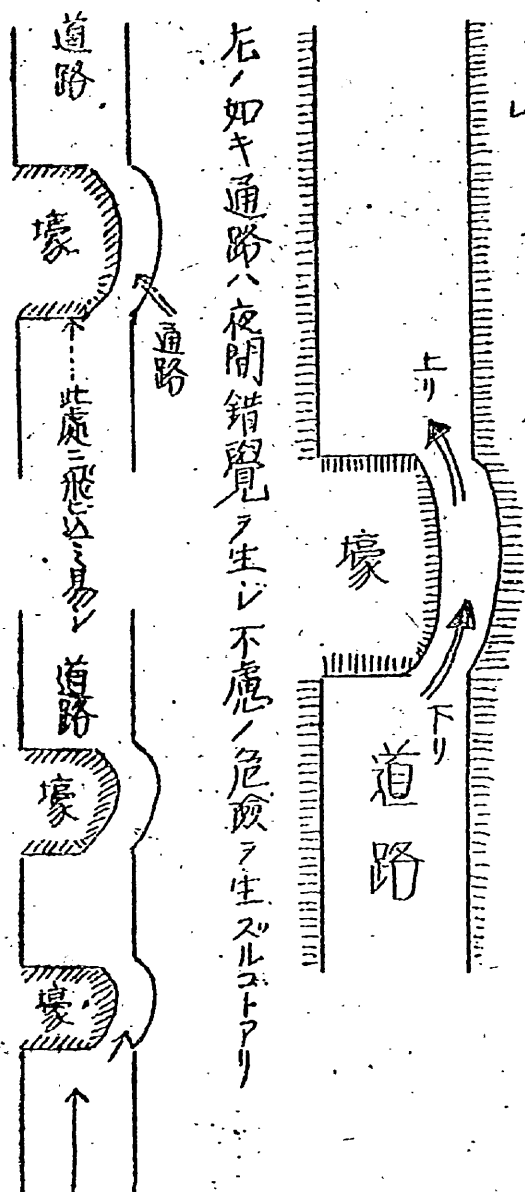
1. 彈藥

輸送部隊ノ彈藥取扱極メテ粗漏ニシテ兵器廠ニ於テ受領時既ニ不良藥筒數
 十發リニ予定數受領セズ受領後各中隊ニ於テ再受檢セルニ尙左ノ結果ヲ
 見タリ

帶狀藥 臭火藥ノ濕氣ヲ含ミ使用不能ノモノ
 臭火藥ノ濕氣ヲ含ミ使用不能ノモノ

一 二
 一 四

3 左ノ如キ通路ハ夜間錯覺ヲ生シ不慮ノ危険ヲ生スルコトアリ



2 左ノ如キ通路ハ通過困難ニシテ牽引車ノ履帶離脱自動貨車ノダイヤ
 パシク等ノ故障生ジ易シ

0205

其火藥包切レ其火藥ヲク使用不能ノモノ
原因ハ輸送途中ニ於ケル為船艙内ノ浸水ニ依ル

2. 燃料 脂油

(4) 「カリン」大トム缶内内容完全ナルモノ殆ンドク定置量ヨリ不足スルヲ常トス甚シキモ故
意ニ水ヲ混入セル形跡アリ或ハ石油輕油又ハ航空用「カリン」等ノ「トム」缶混入ス
受領時特ニ綿密ナル点検ヲ要ス

(P) 「カリス」ハ常ニ不足ス 衰損甚シキ車輛ニカハラ道路不良ナリ為現在ノ如
ク「カリン」ノ補給量ニ對スル比率「トム」ヲ以テスル補給定置量ニテハ全然不可ニシ
テ少クモ倍量ヲ必要トス

3. 糧秣

常ニ少クモ一週間分以上ノ予備ヲ携行シテアルヲ要ス 本回兩岨山附近ニ於テハ
主食不足シ即急的ニ現地ノ稻ヨリ製成米セルモ戰鬪準備行動ヲ要自ラ
阻碍ス

199

222

0220

第二節 桂林攻略戦

一 陣地ノ選定

一 著名ナル村落森林等ノ近傍ハ勉メテ避クルヲ要ス

本戦闘間ニ放列陣地ハ對空遮蔽地ニシテ進入路他部隊ノ陣地ニ關係上等ヨリニ民村南端ニ

第四中隊具西側ニ第三中隊ノ陣地アリシガ特ニ第四中隊ハ巨大ナル闊葉樹下ニシテ極メテ著明ナリ
レ為最モ多ク敵彈ヲ吸收シ損害ヲ多クナリキ第三中隊ハ全然遮蔽ナカリモ該部落ヨリ稍離
隔シアリレ為損室ワシ

二 陣地ハ分散主義ニ徹底スルヲ要ス

大隊ノ放列陣地近傍ハ巨圖ノ如キ關係ニアリレ為最モ密集セル本部及第四中隊ノ視測所地域
並ニ第四中隊ノ放列陣地ニ於テ最モ多ク損害ヲ出シ廣正面ニ分散セル第三中隊ハ損害ヲ皆無
ノ状態ナリキ自隊内ハ勿論他部隊トノ相互協定ヲ適確ニシ徹底セル分散主義ヲ絶体必要トス

三 林縁放列ハ樹木ノ大小ニ依ルモ勉メテ避クルヲ可トス

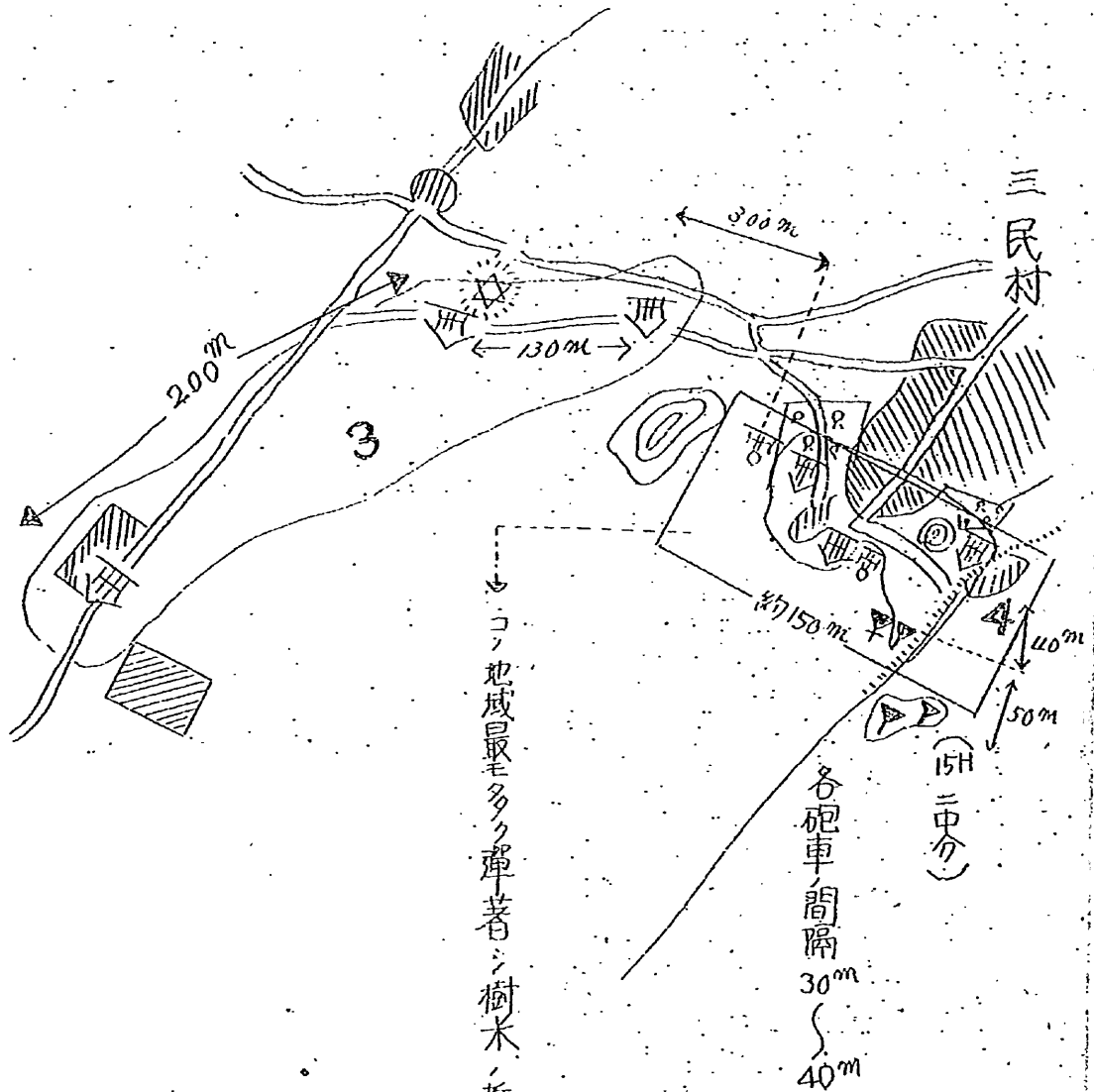
第四中隊第三分隊長ハ頭上ノ樹枝ニ命中破裂セル十五榴瞬發榴彈ノ破片ニ依リ個人掩体
内ニ於テ即死セリ

四 任務達成ノ為ハ多少ノ無理ヲ敢テスルモ所望ノ視界ヲ有スル自隊ノ有力ヲ補助視測所

視測所候ヲ派遣スルハ極メテ必要ナリ

桂江對岸ニ派遣セル大隊指揮班長以下補助視測所通信連絡ノ困難ヲ克服シテ大隊ノ任務達成
ニ貢献セルヲ絶大ナリキ

0207



201
224

0222

二射撃

一 對砲兵戰ニ在リテハ先ヅ敵砲兵ヲ把握スルコト緊要ニシテ之レガ射撃ノ成否ヲ左右スルコト大ナリ
 獨秀峰附近敵十五榴(三門)ハ大隊主觀測所ヨリハ全然發見サレナリモ敵ノ側方ニ位置セル補観ヨ
 リハ一門ハ砲身防楯ヲ認ムル暴露ニシテ他ハ火光ノ基部ヲ認メ符名ヲ以テ大隊指揮班長ヲレ
 テ直チニ射撃ヲ指導セシメ忽チニ完全ニ制圧セルヲ確認シ得タリ

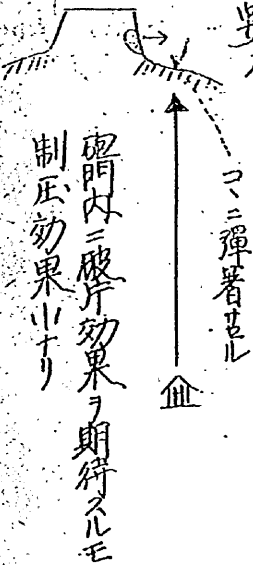
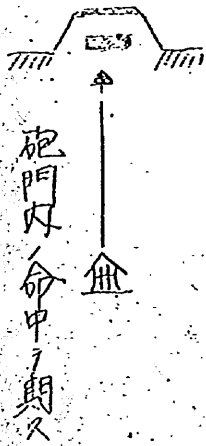
二 砲兵決鬪ニ最後ノ決ヲ與フルモノハ指揮官以下ノ旺盛ナル精神力就中攻撃精神必中
 必勝ノ信心守之ナリ

敵十五榴ト對仇ニテ射撃ヲ實施セル第四中隊ノ陣地ハ敵ノ有効彈多數ヲ蒙リ死傷ヲ生ジ
 電話線切斷サレタルモ飽ク迄沈着冷靜ニ不屈ノ意志ヲ以テ射撃ヲ續行シ遂ニ敵ヲ沈黙セ
 シメ符名ヲ一ニ死生ヲ超越セル崇高ナル精神力ニ依ラズンバアラス

三 傾斜急峻面壁ニ似タル山地ニ對スル試射ニ於テハ少數彈藥ヲ以テ精度良好
 ナル表尺ヲ求メ得 傾斜係數ヲ顧慮セバ公算誤差小トスルヲ以テ自明ノ理ナラン

四 侵徹効力ヲ期待シ得ナル持火兵(本戰鬪ニ於テハ殆ト全部)ニ對スル射撃ハ砲門向
 ヲ顧慮シテ目標射撃ノ要領等ヲ決定スルヲ要ス

例



- 5 市街地ノ擾乱射撃ハ火災ノ生ズルニ伴ヒ効果ナリ火焰彈ヲ有シタバ一層有効ナリ
- 6 地形上??彈ノ出ル公算大ナル場合ニ於テ射撃當初少數ノ曳火榴霰彈(發多クモ一噸)ヲ使用シテ射向ヲ確カムルハ極ク有利ナリ
- 7 尖銳彈ノ裝藥ニ號射撃ハ射距離四千以内ニ於テ概不實用ニ供得

三通信連絡

ノ熾烈ニ砲爆撃ニ對スル通信連絡確保ノ手段

- イ 重要ナル通信線(第一ニ觀放間)ハ絶体ニ線以上ヲ必要トシ且之ヲ経路ハ多少迂路トナルモ相當固ニ離隔セシムルヲ要ス
- 本戰鬪於テ砲彈ニ依ル断線極ク多ク四モ一時ニ一線數箇所ヲ切断セリ且同経路附近ニ多數ノ線アリシ爲補修開通ニ少クモ十分以上ヲ要セリ
- ロ 觀放間ノ通信線以外ハ愈々放列ノ近傍ヲ通過セシメタルヲ要ス放列ハ通常敵彈ノ彈藥地帯トナルヲ以テナリ
- ハ 放列觀測所近傍等敵ノ彈藥地帯上ル地域ニ於テ少クモニ口徑以上ノ壕設又ハ埋設トスルヲ要シ且他ノ成リ得ル限リ地表ニ石ニ敷設セシムルヲ要ス此ノ際地形ヲ利用シテ損害ヲ減少スルノ著意ヲ必要トス一不充足ナル埋設ハ且ノ目的ヲ達セザルノミナラズ切斷部位ノ發見困難トナリ
- 本戰鬪ニ於テハ一線ニ就キセテ所同時ニ切断セリ例アリ

0120

四 築 城

3. 無線ニ依ル射撃指揮ハ極ク拙劣ニシテ將來益々必要ノ度大ナルニ鑑ミ訓練要
大ナリ

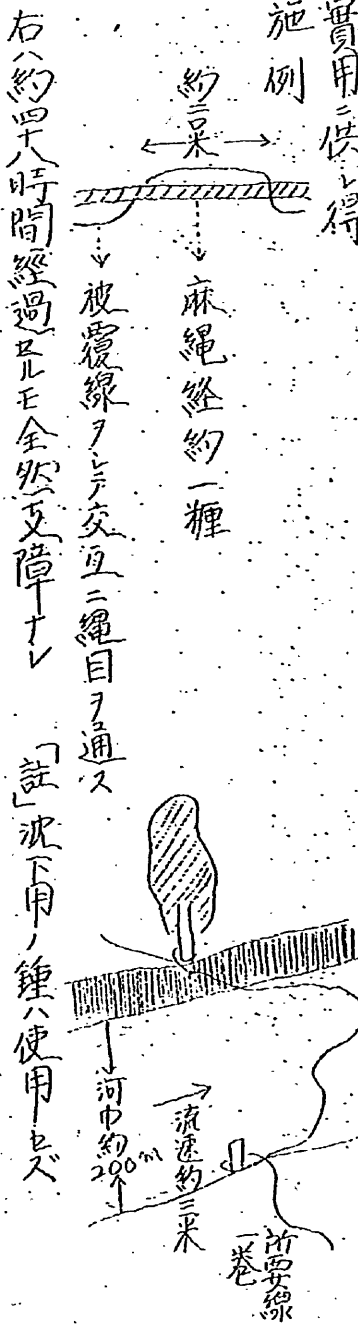
1. 工事絶体必要ナルヲ痛感ス時間ニ餘裕ナキ狀況ニ於テモ個人掩体ノミハ速ク
ニ完成セシムルヲ要ス

本戦闘ニ於テ敵砲彈ニ依ル死傷者ハ總テ工事ニ壞ラザリシカ又ハ工事不充ナル
ニ起因ス

一般ニ敵彈ヲ受ケテ始メ慌ラズ工事ニ着手スルノ要アリ

2. 架設ヲ許サレバ急流河川ヲ横過シ線路ヲ構成スルニ所在ノ麻繩ヲ以テ被覆線ヲ補
強スルニ實用ニ供セ得

實施例



204₂₇

0225

五 整備機関ノ運用

火砲ノ修理機関ハ常ニ規則近クニ(少至中隊段列ト同所)位置直セルルヲ要ス
 而中隊共各一門故障ヲ生セルモ聯隊段列修理班ハ總テ約十軒後方ニ在リシ爲即
 急ニ修理間ニ合スルテ戦闘ノ終末ヲ見テ

六 給休養ノ實施

給休養ヲ輕易ナラセルハ發刺タル企圖ノ遂行上極メテ緊要ナリ
 觀測所推進稍々モスレバ鈍重化セントスルハ一ニ掛テ給休養ニ関スル準備モ大ナル一
 因ヲ爲ス 兎角喰フコト授ルコトニ依リ行動ノ敏活ヲ又カントスルノ弊ヲ打破スルニ勉
 むルヲ要ス 要スレバ不眠絶食モ敢テ辞セサルヲ要ス

七 其 他

鐵帽ハ戦闘初ルヤ必ず着用セルルヲ要ス
 本戦闘ニ於テ頭部ニ受傷シテ戦死セル者多キハ一ハ鐵帽ヲ着用セカリシニ起因スル
 コト大ナリ
 敵砲彈(爆彈)又同じニ飛來音ハ速クニ聞ク分テ得ル如ク實地ニ就キ教育スルヲ要ス
 此ノ音ヲ近ク聞ク場合ハ於テ直クニ掩壕ニ飛入り或ハ地形地物ヲ利用シ低姿勢
 勢ヲ執ル等對應ノ處置ヲ行ハ相當ニ損害ヲ軽減シ得ベシ
 不用意ノ高キ姿勢ハ最モ禁物ナリ

0213

附

録

207

207

0228

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

附録纂一

本戦闘ニ於ケル武功拔群功績優秀ナル者

一、武功拔群ナルモノ(將校ノミ)

大隊指揮班長 陸軍中尉 柳澤登

第四中隊長 同 長沢清

第三中隊長 同 大尉 富川直芳

二、功績優秀ナルモノ(將校ノミ)

大隊通信掛將校 陸軍少尉 米樺誠三

第四中隊砲車小隊長 同 安形敏行

第三中隊指揮小隊長 同 熊田一郎

0214

0208

0229

賞詞

獨立野戰重砲兵第五聯隊第二大隊本部

陸軍主計軍曹 林 谷 孝 一

右者昭和十九年六月二十日ヨリ十月四日ニ至ル三月餘本部附主計下士官トシテ服務シ温順精勤上下ノ信望ヲ集メ寢食ヲ忘レテ本務ニ邁進ス即チ本部編成小ニシテ補給業務ニ差出スヘキ人員數名ニ過キサルヲ知ルヤ自ラ民船ヲ操縦シテ補給能率ノ向上ニ努メ危險ヲ顧ミス殘敵蠢動スル地區ヲ補給廠ニ到リテ本務ヲ完ワシ將兵ノ士氣鼓舞シタルカ如キ或ハ意見ヲ具申シ民船數隻ヲ徵用シテ敵機跳梁ノ最盛期數夜ニ亘リ遠ク湘江ヲ上下シテ何等ノ事故ナク補給ヲ完ウシテ歸還シ的確ナル指揮掌握ノ範ヲ示シタル如キ職務完遂ニ對シ計畫周密動作勇敢ナル分隊長ノ如シ斯如キ平素軍人精神ノ鍛練ニ餘念ナキ軍人ニシテ甫メテ克ク成シ得ル行爲ニシテ一人能ク所屬隊ノ氣風ト傳統ト名譽トヲ顯現シタルモノ即チ所屬隊ヲ離レ他隊ニ服務スル下士官ノ模範ト認メ茲ニ賞詞ヲ與フ

昭和十九年十月十日 桂林攻略ノ日

山崎部隊長 陸軍少將 正五位 山崎 清 次

附録第三
 統集團編成ニ方リ與フル統集團司令官訓示
 擊米倒蔣、大旆曩ニ大陸河南ヲ風靡シ今又堂々湖南ヲ席卷スト雖モ
 作戰前程極メテ長遠加之太平洋ノ戦局愈々熾烈皇國正ニ對米決
 戦ノ機ヲ迎フ
 此ノ秋ニ方リ本職第六方面軍司令官ニ親補セラレ光輝アル中南支方
 面隸下皇師統率ノ大任ヲ拜ス洵ニ恐懼感激ニ堪ヘサルトコロナリ輒チニ
 將兵精強ニ信倚シ承諾必謹、自奮自勵百艱ヲ超克シテ負荷重責ノ
 必遂ヲ期ス仍テ茲ニ予ノ念願企圖スル胸底ヲ率直ニ開示シテ舉テ軍之カ
 即行ニ邁進シテコトヲ要望ス

一 皇國ノ直面スル戦局ヲ深察シ舉軍決死ノ忠節ヲ傾倒スルヲ要ス
 今ヤ世界ノ戦局益々苛烈舉世決戦ノ段階ニ突入シ太平洋方面亦米
 英反攻愈々熾烈光輝三千年外敵不可侵ノ神州將ニ隆替ノ關頭

ニ立チ一億一丸國難克服ニ邁進秋臨メリ將兵宜シク曠古ノ戦局ヲ銘
 所シ其ノ任ノ作戰タルト警備タルト問ハス一兵ノ忠魂一塊ノ軍需ヲ忽セヒセス
 統軍一團トナリ上下脈絡貫透徹シ至難ニ處シテ志氣愈々振ヒ敢闘
 決死以テ任務ノ必成ニ渾身ノ精魂ヲ傾倒スヘシ

ニ 作戰様相ヲ把握シ之ニ對處スヘキ積極周到ナル方策ニ徹スルヲ要ス
 今次湘桂方面ノ作戰ハ從來ノ對重慶軍作戰ト異リ増勢米空軍ノ
 跳梁スルアリ更ニ近ク優良裝備ノ衆多ナル地上軍ニ直面スヘク特ニ敵ノ
 常套戦法タル空陸ヨリスル後方遮断ハ我カ補給路ノ長遠ニ伴ヒ愈々
 凄壯激甚ナルヲ覺悟セサルヘカラス此ニ於テカ作戰ニ任スル軍ハ戦力ノ増
 進更張ニ全ノ努力ヲ傾注シテ常時彈撥力ヲ確保シ戰訓ヲ活用
 シテ新戦法ヲ攻究工夫シ兵團ノ實情ニ立脚シテ指揮統帥ノ嚴明適切
 ヲ期シ以テ積極且堅實ナル戦法ヲ敵ニ強要シテ作戰全局ニ亘リ最大ノ

戰果ヲ獲得スルヲ要ス

又後方要域ノ確保警備ニ任スル軍ハ萬策ヲ講ジテ寡兵克ク衆敵ヲ抑
壓スル方策ニ遺憾ナキヲ期スルト共ニ依戰軍ニ對スル戦力ノ培養推進ニ萬
全ヲ盡クシ長期ニ亘リ不斷之カ實行ノ確實ヲ期スベシ

三 航空戦力發揮ノ爲自發積極的ノ協カヲ盡クスヲ要ス

近代戰趨勢ハ空地兩軍ノ統合威力ヲ要時要點ニ發揮シテ戰勢ヲ打
開セサルヘカラス況ヤ優勢敵軍ニ對シ長遠果敢ナル進攻ヲ繼續セシカ爲ニ
航空軍ノ協カニ俟ツモ頗ル大ニシテ隷下諸軍ノ既ニ具ニ體驗セシ所ナリ
宜シク統集團ハ友軍航空部隊ヲシテ遺憾ナク其ノ全能ヲ發揮セシメンカ
爲有ユル努カヲ傾注セントラ期スヘシ乃チ情報收集對空監視飛行場
整備並ニ警備及兵站輸送等ニ關シテハ己レヲ顧ミテ積極不斷ノ獻身的
協カヲ盡クスニ各チテサルヘシ

四 作戰即應ノ戰場教育ニ徹底スルヲ要ス

現下各部隊ハ多數ノ教育不十分ナル補充兵ヲ有スル實情ニ鑑ミ先ツ至誠純忠ノ精神鍛冶ヲ旨トシ戰場不可缺ノ訓練ニ徹スルト共ニ兵馬倥忽ノ間幹部ノ自究研鑽上級指揮官不斷ノ指導ヲ重視シ日ニ日ニ精強ナル軍隊ヲ練成スルヲ要ス

又主敵ハ敵航空ナルノ實情ニモ鑑ミ對空行動及積極的防空處置ヲ適切ナラシメ諸施設ノ分散遮蔽埋設、隔壁等ニ努ムルト共ニ統集團將兵ハ部隊タルト個人タルトヲ問ハス敢闘必墜ニ徹底シ苟モ敵機ノ爲任務ノ遂行ニ消極遲滯ヲ來スガ如キコトナキヲ要ス 尚對戰車射撃、肉薄攻撃ヲ向上シ敵機械化軍ノ現出ニ會フモ必勝感横溢ノ精銳軍ヲ練成スヘシ

五 皇軍ノ眞姿ヲ顯現シ速カニ民心ヲ收攬スルヲ要ス

聖戰ノ本義ハ皇軍將兵ノ實踐ニ依リ宣布ヒテ躬行ニ依リ結實ス
 乃チ軍ハ益々神武ノ徳ヲ砥勵シ舉軍嚴肅ナル軍紀ヲ振作シ作戰地
 住民ニ對シテハ須ク「擊米愛民」ノ精神ヲ根基トシ克ク之ヲ愛憐シ以
 テ作戰目的ノ達成ニ欣然隨伴セシムコトヲ期スヘシ

夫レ統集團ハ武漢以南中南支ノ要域ヲ確保シ雄渾無比ナル進攻
 作戰ヲ繼續スヘキ任務ヲ有ス隸下將兵一同自己ノ責務ノ重要性ヲ感
 銘シ敍上五ヶ條ノ教示ヲ遵守シ

御稜威ノ下舉軍必勝感ヲ信念化シ鐵石ノ團結ト旺盛ナル志氣トヲ
 以テ所命必遂ニ奮進シ克ク本職ト共ニ皇國ヲ富嶽ノ安キニ置キ
 聖旨ニ副ヒ奉ランコトヲ期スヘシ

昭和十九年九月十日

統集團司令官 岡村寧次

旭集團長訓示

軍の戦力逐次ニ更張シ戦機漸ク動カントスルノ秋親シク第一線兵團長ノ發刺タル壯容ニ接スルハ本職ノ衷心ヨリ欣快トスル所ナリ

各兵團部隊ニ於テハ今ヤ作戰準備上最モ繁忙ヲ極ムル時而モ各種ノ不便困難ノ存スルコトヲ承知シテ敢テ兵團長會同ヲ催シ諸官ノ參集ヲ求メタル所以ハ次期作戰ニ關スル本職ノ意圖ヲ明示シ舉軍ニ途ノ方針ニ基キ更ニ準備ノ完壁ヲ期シ一度起ツヤ疾風迅雷速カニ大作戰ヲ遂行シ以テ初期ノ作戰目的ヲ完遂セントスルニ在リ

熟々次期作戰ノ様相ヲ考フルニ本作戰ハ南西支那ニ於ケル航空基地ヲ中心トスル敵ノ政戰兩略最後ノ根據ヲ屠リ以テ「卜」號作戰終末目的ヲ達成セントスルモノニシテ其ノ規模極メテ雄大ナリ而シテ敵ノ兵力ハ多衆其ノ抵抗ハ頑強ナルヘシ而モ全般情勢ノ要請ハ迅速果敢ニ舉ニ作戰ノ

完遂ヲ圖ラサルヘカラス即チ各兵團ハ從來ニ比シ更ニ長遠、長時日ニ巨ル
 大機動ヲ行ハサルヘカラス又隨所ニ増集抵抗スル衆敵ヲ撃破シ且大都城
 ヲ核心トスル堅陣ニ據ル頑強ナル敵ノ抵抗ヲ力攻撃破シテ迅速ニ之ヲ攻
 略セサルヘカラス而シテ敵ノ航空勢力カハ更ニ逐次ニ増強シ其ノ行動ハ執拗
 ナルモノアルヘク敵ノ地上兵力亦從來ト異リ戦車、重火器、重砲等優良
 ナル装備ノ現出ヲ豫期セサルヘカラス

尚一擧ニ作戰ノ目的ヲ達センカ爲軍ハ作戰指導ニ方リ各種ノ困難ヲ連
 續要求セサルヘカラサルコトアルヘシ

以上ノ如ク次期作戰ノ様相ハ之カ準備ノ爲與ヘラレタル時日及物的戦力ニ
 比シ要求セラルル所ハ極度ニ大ナルモノアルヘシ然レトモ之全般ノ狀況ト大目的
 ノ爲洵ニ止ムヲ得サル所ナリ各兵團部隊ハ大局ノ要請ヲ深ク認識シ自
 ラ給シ自ラ戦ヲノ覺悟ヲ以テ凡有困難ヲ排シ目的ヲ達成邁進センコトヲ望ム

作戰準備ニ關シテハ補給輸送關係諸部隊並ニ各兵團部隊ノ努力ニ依リ著々進捗シツアルハ意ヲ強ウスル所ナルモ兵站全般ノ困難性ニ起因シ各兵團部隊ノ要望ニシテ作戰開始迄ニ達成セラレサルモノ相當ニ生スヘキコトヲ懸念シテリ然レトモ全般情勢ノ要請ハ準備ノ未完成ヲ以テ作戰發起ノ期日ヲ無制限ニ遷延スルコトヲ許サス各兵團部隊ハ今次會同ノ結果ニ依リ作戰發起迄ニ整正フヘキ準備ノ限度ヲ定メ更ニ段ノ奴カカラ以テ之カ完遂ヲ期シ以テ發足ニ支障ナカラシメンコトヲ望ム

8220
次期作戰ノ敵情判断ニ於テ軍當面敵並ニ之ト關連アル全般ノ敵情特ニ敵ノ空軍並ニ裝備優良ナル部隊ノ活動等ニ關シ極端ナル樂觀ヨリ過度ノ悲觀ニ到ル迄觀察ハ區々タルモノアリ軍トシテハ前述次期作戰ノ様相ヲ考フルトモ作戰ノ終始ヲ通シ敵情ニ關シテハ決ニ樂觀ヲ許ササルモト思考シアリ然レトモ反面各兵團部隊共ニ支那軍ノ戦力並ニ慣用戦法ニ關シテハ知悉

シテ又今次作戦開始以來屢々頑強ナル抵抗ヲ打破シ又堅固ナル城砦ヲ攻略スル等貴重ナル經驗ヲ有スルヲ以テ次期作戦ニ於ケル敵ノ對抗手段モ亦之ヲ窺知スルニ難カラス

乃チ各兵團部隊ハ苟モ敵ヲ輕侮シテ思ハサル不覺ヲ取ルカ如キコトナキヲ要スルト共ニ衆敵ニ對シ戰機ヲ逸シ爲ニ迅速果敢一舉ニ作戦ノ大目的ヲ達成セントスル大方針ニ戾ルカ如キコトナキヲ要ス

今次作戦ハ方面軍統帥ノ下ニ第二十三軍ト相策應シテ遂行スルモノニシテ此ノ關係ハ作戦ノ進歩ニ伴ヒ益々密接ヲ加フヘシ而シテ方面軍作戦指導ノ狀況ニ依リテハ一部ノ戦局ニ於テ功ヲ友軍ニ讓ラサルヘカラサルコトモ亦豫期セララル所ナリ

軍ハ武漢作戦以來精銳強大ナル兵團部隊ヲ以テ支那派遣軍ノ總前衛トシテ常ニ攻勢作戦ニ依リ任務ヲ解決シ來レルノ傳統ト矜恃トヲ有ス

區々タル功名ノ如キハ亦論スルニ足ラス 傳統ヲ發揮シ名ヲ捨テテ實ヲ採リ只管敵ヲ撃滅シテ作戰ノ目的ヲ達成スルノ一途ニ邁進セントラ望ム之ヲ要スルニ次期作戰ハ幾多ノ困難存スヘシト雖モ「ト」號作戰結末ノ大作戦ニシテ衆敵ヲ撃滅シ敵ノ航空基地ヲ崩壊シテ大東亞ニ於ケル國軍全般ノ作戰ヲ有利ナラシメ 皇國本土ヲ掩護スルノ大目的ヲ達成セントスルモノナリ各兵團部隊ハ深ク其ノ責務ノ重大ナルヲ自覺シ萬難ヲ排シ迅速果敢 敢強不屈以テ本作戦ノ目的ヲ完遂セントラ期スヘシ

昭和十九年十月十九日

旭集團長 横山 勇

附録第五

山崎部隊長訓示

敵ノ政戦兩略最後ノ根據ヲ指呼ノ間ニ望ミ今ヤ部隊ハ第一線兵團ニ膚接シ全隊舉手ケテ雄大ニ作戦ニ直接参加光榮アル任務ヲ受ク誠ニ壮快至極ニシテ今日迄各種ノ困難ヲ克服シ脾肉嘆ヲ啣ケツ前途ニ進ヲ續ケ來リ將兵モ初メテ此武運ニ恵マレ欣喜ニ堪ヘサルモノ有ルヘシ此際ニ際シ更ニ諸官ト會シ直々上司ノ意圖ヲ傳ヘ且之ニ基ク本職ノ要望所懷ニシテ指示シテ任務ノ完遂ヲ期セントス

一 決死ノ忠節ヲ射弾ニ依リ具現セシトヲ望ム

曩ニ統集團長引續キ旭集團長ヨリ將兵悉ク決死忠節ヲ傾倒シテ本次作戦ニ臨ムヘキヲ訓示セラレ諸官ハ之カ徹底浸透ニ銳意努力セラレアルヲ確信スルモ射撃ヲ生命トス砲兵其ノ成果ヲ飽クマテ一發一發射弾ニ依リ具現セサルヘカラス即チ此際更ニ發射弾ハ中隊ノ全精神訓練ノ

全精華ヲ凝集填實セラレタルモノナルヘキ觀念ヲ振作強調シ發必中精確無比ニ射撃ヲ以テ敵ヲ震駭壓倒シ今次作戰ノ最高頂トモ謂フヘキ晴戰場ニ砲兵ノ本領ヲ遺憾ナク發揮セシコトヲ要望シテ止マス

ニ 悪路ヲ克服シ舉ニ長遠ナル行程ヲ踏破スヘキ迅速ナル運動性ヲ發揮スヘキ準備ノ完璧ヲ期スヘシ

今日ニ到ルニテ輓馬部隊ハ固ヨリ機械化部隊亦終始悪路ニ悩マサレ來リシモ今後作戰ハ狀況更ニ急ヲ要スル場合ニ於テ一層長遠ナル悪路ヲ克服シ躍進ニ躍進ヲ續ケサルヘカラスル戰況ヲ豫想セラルヲ以テ工兵隊等ノ協力ニ待ツコトナク自隊ニ於テモ既往ノ體驗ヲ活用シテ之カ克服ニ違算ナキ方策ヲ講シ軍馬牽引車自動車等ノ愛護ノ完璧ヲ期シ軍衆刻ニ其ノ要望ヲ達成スヘシ

三 目標ヲ飽クニテ嚴選シ射撃ヲ戰機ニ投合セシムルコトニ遺憾ナキヲ期スヘシ

砲兵トシテ目標ヲ嚴選シ戰機ニ投スル射撃ヲ實施スルニ努ムルハ固ヨリ當然ナルモ特ニ支那軍陣地ハ正面長大ニ亘リ火点ノ点在夥多ナルヲ毎トレ一々之ヲ處理セントスルカ如キ迂愚ニシテ眞ニ我歩兵ノ突進ヲ妨害スル目標ニヲ確認スルニ努ム一度之ヲ確認セハ機ヲ失セス徹底的ニ制壓スルヲ要ス而シテ目標ヲ嚴選シ戰機ニ投スル射撃ヲ適切ニ實施シ得ルハ一ニ我陣地觀測所ヲ極力第一線ニ接近シテ南メテ完キヲ得ルハ諸官ノ十分熟知ナル所特ニ今次作戰ニ於テハ長射程加農ト雖モ直協砲兵の且穿貫的ニ使用セラルヘキ軍ノ意圖ナルヲ以テ全部隊悉ク方難ヲ排シ錯誤ヲ戒ム之ヲ徹底的實現ヲ期スヘシ

四 高射砲中隊ハ砲兵掩護ノ觀念ヲ捨テ墜主義ニ徹スヘシ

測ラス赫々タル武勲ヲ有スル高射砲中隊ノ配屬ヲ得タルハ依然敵機ノ跳梁ヲ予想セラルノ戰況ニ於テ砲兵威力ノ増強ニ資スルヲト絶大ナリ然トモ

高射砲中隊ニ望ム所ハ掩護ヲ觀念ヲ捨テ敵機撃手隊ノ爲メ選ハレテ挺進セシメラレタル最前線野戰高射砲中隊タル意氣ヲ以テ寧ロ地上砲兵ヲ囿ニノ撃手隊主義ニ徹スヘシ

高射砲中隊此ノ意氣ト地上砲兵自体適切ナル上空防護ノ處置トニ依リ砲兵掩護ハ自ラ完璧タルヲ得ルコト言フ待タサルヘシ

五 部隊ニ對スル軍要望期待恩情ニ對シ全智全能ヲ舉ゲテ之ニ對スル所無カルヘカラス

今次作戰ニ關シ部隊ニ對スル要望期待頗ル大ニシテ或ハ少數高射砲ニ部ヲ割愛シテ部隊ニ配屬セシメラレタル如キ或ハ補給能率充分ナラザル現況ニ於テ方難ヲ排シ他ヲ除キ燃料始メ其他ノ必要物資ヲ着々補充セシメラレツアルカ如キ誠ニ感激ニ堪ヘサルト共ニ益々主責務ノ重大ナルヲ痛感ス諸官ハ此上司ノ特別ナル配慮恩情ヲ銘感シ全智全能ヲ

學ヲケテ必ス軍ノ要望ニ副ヒ任務ノ完遂ヲ期セサルヘカラス
 之ヲ要スルニ世界ノ視聽ヲ集メツアル宿敵米ノ策謀根據地潰滅戰機
 正ニ熟シ部隊ハ全カヲ舉ゲテ之ニ參加ヲ命セラレ此ノ時ヲ措キテ何レノ時カ
 砲兵ノ本領ヲ發揮シ部隊ノ最高戰力ヲ發揮スル機會ヲ得ン諸官
 宜シク全智全能ヲ絞リテ部隊ノ戰力ヲ最高度ニ發揚シ以テ任務完
 遂ヲ期スヘシ

右訓示ス

昭和十九年十月二十六日

山崎部隊長 山崎清次

附録第六

作戰開始ニ方リ砲兵ニ對スル注意事項

識量ニ富ミ實戰ノ經驗豊富ナル諸隊長ト共ニ今次作戰ニ參加スルコト、
ナリ左記ノ如キ注意事項ハ殆ト必要ナシト信スルモ敢テ一言ス

一 射撃効果ノ觀察ヲ忽ニスヘカラス

射撃手ノ效果ヲ十分目視シテ射撃手ニ又ハ指道守シ操技ノ般ニ貴重ノ彈丸
ヲ發射シテ敵ニ突ハルカ如キ事無キヤウ特ニ注意ヲ望ム(今次作戰開始
後モ此ノ旨例アリテ總軍ヨリ一般ニ注意アリタリ)

射撃ノ實行計畫ノ如キハ約言セハ一ツノ復案ニ過キスシテ射撃手ノ效果
十分ト認ムレハ計畫ニ射彈^{30發}ト有ルヲ^{10發}ニ止ムルハ固ヨリ當然ナリ步兵モ亦
砲兵カ射彈^{30發}ヲ發射スル等タカラソレカ終了スルマテハ前進ヲ見合ス如キ
協定墨守ニ陥ルト砲兵射撃手ノ效果十分ト認ムレハ直ニ攻撃手前進ス
ヘク砲兵ハ此步兵ノ勇敢ナル行動ヲ目視シツツ十分ナル支援ノ準備ヲナシ、

アルヘシ

二、射撃目標の嚴選

砲兵の射撃目標の嚴選ハ支那軍陣地ノ如キ廣正面陣地ヲ攻撃シニ於ケル砲兵トシテハ極メテ大切ナルコトニシテ飽クマテ突破歩兵ヲ妨害スル敵ニ對シテ指向シ假令大炸裂ノ彈丸ニテモ友軍無キ水田ニ落下セシムル如キ敵迫撃砲陣地ニ對シテハ之ヲ投擲シテ顧ミサルヲ要ス

而シテ友軍ニ危害ヲ最モ多ク與フル目標ハ友軍第一線カ一審ヨク承知シテアリ故ニ砲兵カ緊密ニ第一線ニ連絡シテアラサレハ如上ノ目標ヲ捕捉シ得サルハ當然ナリ歩兵ハカクル際取テ砲數ノ多キヲ欲ヒス隔靴痛痒ノ感無キ山砲一門ヲ渴望ス直協砲兵ハ此歩兵ハ切ナル要望ニ對スル具體的方法ヲ講シ置クコト必要ナリ

砲兵ハ兎角徒ニ射撃シ易キ目標ヲ射撃スル傾向ニ陥リ易シ然ルニ

2320

227
2.4.0

0247

步兵最モ砲兵ニ射撃ヲ依頼シタキハ前項如キ場面ニテ砲兵トシテ發見
困難最モ射撃シ惜キ目標ナルヲ常トス步兵ハカル目標ヲ砲兵ニ速知スル
爲メ其速射砲ノ射彈等ヲ以テ目標ヲ指示スル如クセハ目標ノ授受幾
分迅速ナルヲ得ヘシ

三、敵機ニ對シテハ擊墜主義ニ徹スヘシ

敵機ノ跳梁依然甚タシク特ニ砲兵ハ銃爆撃チノ目標タルヘキヲ以テ放列
ヨリ離隔ニテ對空銃撃部隊ヲ配置シ敵若シ放列ニ向ヒ大膽銃爆撃
ノ態勢ヲ執ルヲ發見セハ機ヲ失セス銃撃チシテ擊墜ニ努カメ以テ旭佳木
團長指示ノ精神ヲ高揚實施スヘシ

四、友軍歩兵ニ對スル危害ノ絶無防止

友軍歩兵ニ對スル危害防止ノ絶對的ナルヘシ念ハ念ヲ入レ君國ニ對スル
献身的勇氣ヲ以テ敵陣ニ突入スル友軍歩兵ヲ心ヨリ敬愛シ過誤ナキヲ

8820

0234

切望す此より

昭和十九年八月三十日

山崎部隊長

223

0249

附録第七

砲兵隊長指示

一、敵機ニ對スル處置

既ニ指示セルトコロナルモ更ニ強化セントス

1. 觀測所、放列陣地、段列位置、彈藥集積所及宿營地ニ就イテハ分散、偽裝、遮蔽工事ヲ徹底シテ實施スヘシ

2. 炊事、朝晝食、分ハ天明迄ニ完アシタ食、分ハ二十時以後實施シ書間ハ絶對ニ火ヲ焚クヘカラス

3. 爆音ヨリ直ケニ屋外徒歩者ノ停止、遮蔽ヲ確實ニシ尚ホ敵機去リタル直後屋外ニ出ツルヲ禁ス敵機ハ去ルト見ヒテ反撃スルコト多シ

4. 對空射撃手ニ就イテハ陣地、強化ニ伴ヒ予メ射撃手位置ヲ設備シ我ニ向ヒ地上攻撃手セル敵機ハ擊墜ニ努ムヘシ

加部隊ニ於テハ七百〇八〇小銃八射耗彈ニ六ヲ以テP40一機ヲ擊墜シ

軍司令官ヨリ闘志ト戦果トヲ賞セラル

ニ 體力ノ増強ニ勉ムヘシ

將兵ノ體力増強ニ關シテハ各隊長以下各級幹部ハ萬策ヲ講シ之ヲ保持増強ニ努カセラレモ將兵ノ數ケ月ニ亘ル作戰參加ヨリ疲勞カノ蓄積セルニ加ヘテ追送補給ノ困難ト體力劣弱ナル補充兵ノ近ク參加スル等アリテ其ノ體力増強ニ關シ關心ヲ大ナラシムル要更ニ切ナルモノアリ 殊ニ最近酷暑ヨリ體力低下水過飲ト寢冷ニ因ル下痢補給量ノ減少睡眠不足等ヨリ榮養失調症様患者發生ノ傾向アルハ洵ニ憂慮スヘキ事象ニシテ今ニシテ體力増強ノ方途ヲ講ヒカレハ將來軍戦力頓ニ低下スル事ナキヲ保シ難シ軍ノ作戰目標ハ前途長遠ニシテ一將兵ノ體力ノ貴重ナル今日特ニ關係幹部ヲ指導シ左ノ諸点ニ注意シ軍戦力増強ニ關シ萬遺憾ナキヲ期セラレ度

9820

231

257

0251

1. 體力保持增強、最大要件ハ十分ナル給養ト適正ナル休養ニ存ス

此、兩者ハ作戰行動ト相背馳スルモノアリト雖モ各級幹部ニシテ此等ニ對スル關心及部下ノ戦力保持增強ニ關スル熱意アラハ此ノ困難ヲ打開スル途無キニシモアラス直接戦闘行動ニ支障無キ限り休養ノ方法ヲ講シ徒ラナル疲勞ノ防止ニ努ムルコト特ニ必要ナリ殊ニ體力ノ劣レル兵ニ於テ然リトス

給養ニ方リテハ現地物資ノ利用ヲ最大限ニ行フトハ極メテ必要ナルモ往々ニシテ所在物資全部ヲ取得シ之ヲ消盡スルコトヲ最大限ノ利用ト解スルモノアリ 物資取得ニ方リテハ常ニ爾後ニ於ケル其ノ部隊或ハ後續部隊行動ヲ顧慮シ必要量以上ノ浪費ヲ戒ムルヲ要ス

獸鳥等ノ利用ニ際シテモ亦其ノ肉ノ一部ノヲ利用シ他ハ之ヲ放棄シテ顧慮スルモノアリ 獸鳥ハ其ノ内臟迄余ヌ所無ク利用スルコト緊要ナリ

野菜類ノ取得困難ナル場合ハ救荒植物(野草)ノ利用ニ關シ著意
 セラレ度又副食物ノ取得全ク不能場合ト雖モ食塩(味噌醬油ヲ
 含ム)ノハ方策ヲ講シ攝取セシメラレ度夏季行動ニ於テ食塩ノ補給
 ヲ欠クトアラハ急激ニ體力ヲ低下スルモノニシテ其ノ戦例今次南方作戰ニ
 於テ乏シカラス

2. 部隊ノ戦力低下ヲ來ス重大要因ニ「マラリア」アリ

部隊ハ今次作戰開始以來關係幹部ノ努力ヨリ「マラリア」患者ノ
 發生予想以上ニ少ク極メテ良好ナル成績ヲ保持シ來レリ「マラリア」患
 者ノ發生少クナリシ原因ハ將兵ノ之カ予防識能ノ向上、防蚊工作ノ適正
 等舉クヘキ事項多キモ最大原因ハ予防劑ノ内服確行ニアリシ
 モト確信ス

時未ク暑威衰ヘス且「マラリア」流行ノ旺盛期ニ入り加之將兵ノ

體カ漸ク低下シアル現況ニ於テ從來ノ患者數少キニ油断シ予
防軍紀ニ此ノ弛緩アラカ爆發的ナル所謂戰爭「マラリア」發
生無キヲ保シ難シ過去ノ好成績ヲ益々保續向上スル爲「マラリア」
予防ニ關シ一段ノ努力ヲ拂フヘシ

昭和十九年八月二十日

砲兵隊長

佐々木大佐